

第15回理科教育シンポジウム

理科としての「主体的に学習に取り組む態度」の評価とは？

新学習指導要領が実施される中、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に悩む声が聞かれるようになりました。本シンポジウムでは、この評価の考え方や取り組み事例などをパネリストから紹介して頂くとともに、総合討論により、理科教育の評価の在り方について考えていきます。

日時：2023年10月28日（土）

14:00～17:00

会場：東京学芸大学 中央3号館 C401教室

申し込み方法：右のQRコードよりお申し込み下さい。

（講演資料は、事前申し込み頂いた方に準備します。当日受付もいたしますが、資料が不足する場合があります。ご了承下さい。）

参加費無料・対面開催

申込期限：2023年10月26日（木）まで

お申込み・
お問い合わせは
こちら



東京学芸大学 理科教員高度支援センター

ASCeST

会場：東京学芸大学 中央3号館 C401教室

14：00～ 開会挨拶・趣旨説明

中野 幸夫 教授（東京学芸大学 理科教員高度支援センター長）

●第1部 パネリスト講演

14：05～ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価にどう臨むか

人見 久城 教授（宇都宮大学大学院教育学研究科）

14：35～ 国際バカロレア実践の視点から考える「主体的に学習に取り組む態度」の評価

鮫島 朋美 教諭（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

<休憩（5分）>

15：10～ 高校「物理基礎」における観点別評価の実践例

勝田 仁之 教諭（筑波大学附属高等学校）

15：40～ 地学基礎における「指導と評価の一体化」を目指したカリキュラムづくり

斎藤 洋輔 教諭（東京学芸大学附属高等学校）

<休憩（10分）>

●第2部 理科としての「主体的に学習に取り組む態度」の評価とは？

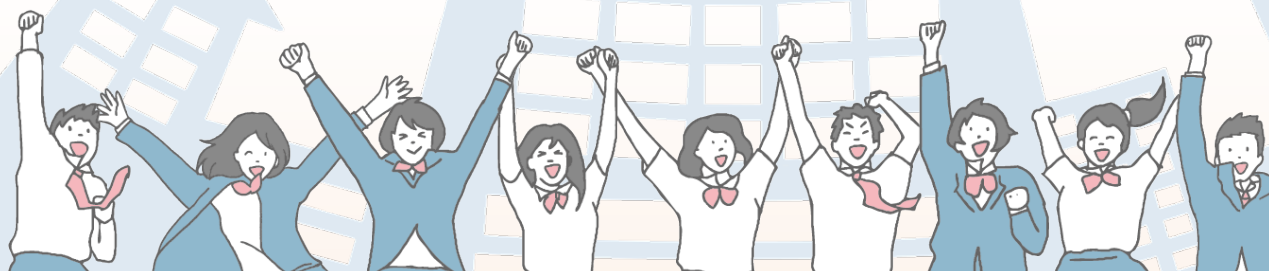
16：20～ 総合討論

司会：新田 英雄 特命教授（東京学芸大学 理科教員高度支援センター）

17：00 閉会

<注意事項>

記録用にシンポジウムの様子を録画させていただきます。一部画像を広報の為に使う事がありますが、個人の特定はできない形で行いますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。
ご質問等がありましたら、下記のお問い合わせQRコードからお願いいたします。



お申込み・
お問い合わせは
こちら

お問い合わせ：東京学芸大学 理科教員高度支援センター（右のQRコードから可能です）

Tel：042-329-7526（平日10時～15時）

Mail：ascest@u-gakugei.ac.jp、rikasymp@u-gakugei.ac.jp



■「主体的に学習に取り組む態度」の評価にどう臨むか

人見 久城 教授（宇都宮大学大学院教育学研究科）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか」という意思的な側面を評価することが重要であると指摘されている。中教審答申第228号（2021）では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進が提言されているが、これら2つの学びに対しても、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は重要な鍵になると考えられる。評価に関する論点や要点を整理し、議論を深めたい。

■国際バカロレア実践の視点から考える「主体的に学習に取り組む態度」の評価

鮫島 朋美 教諭（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

学習指導要領の改訂に伴い、資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。しかし、高校現場での観点別評価実施には、様々な課題があると言われている。一方、国際バカロレア（IB）の教育プログラムでは、厳格な評価システムが用いられ、観点別評価が定着している。IB理科では、科学の本質（Nature of science：NOS）を包括的なテーマとする教育・学習へのアプローチを促進するように設計されており、評価の観点（規準）も明確に示されている。本シンポジウムでは、IB理科の評価実践をもとに、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体について議論していきたい。

■高校「物理基礎」における観点別評価の実践例 -生徒の概念理解向上を目指した取り組み-

勝田 仁之 教諭（筑波大学附属高等学校）

発表者は、高校で物理を教えており、授業では集団の力を最大限利用する、アクティブラーニング型の授業を行っている。物理教育研究の手法に則り、授業効果を測定すると、クラス全体のスコアは高い。一方、物理概念がうまく獲得されない生徒も一定数いる。そのような生徒たちが、授業を通してどのように考えているかを探り、学びを変えていく支援をするために、ワークシートを活用した観点別評価を実践している。講演では、今年度前期の実践について、困難や失敗も含めて報告し、参加者と議論したい。

■地学基礎における「指導と評価の一体化」を目指したカリキュラムづくり

斎藤 洋輔 教諭（東京学芸大学附属高等学校）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を含め、評価をどのように行うのかという議論では、どのような授業を実践していくのかということがセットになって議論されることが大切である。「指導と評価の一体化」ということである。合わせて、そのようなことを考えたとき、1つの授業をどうするか、ということよりカリキュラムをどうつくるのか、ということを考えてほうがより効果的かつ建設的であろう。本講演では、地学基礎におけるカリキュラムづくりを事例にしながら、「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのように行うのかについて提案する。



お申込み・
お問い合わせは
こちら

お問い合わせ：東京学芸大学 理科教員高度支援センター（右のQRコードから可能です）

Tel：042-329-7526（平日10時～15時）

Mail：ascest@u-gakugei.ac.jp、rikasymp@u-gakugei.ac.jp

